

日本印刷工組合信友會と

東京印刷工組合

資本家が如何に妨害しても社會の状態は最早自覺したる労働者の團結を阻止する事は出来ぬ、此の形勢を觀取した狡猾なる資本家は、労働組合を利用せんと企てるに至つた。東京印刷工組合と稱するものは實に斯かる目的を以て資本家に依て組織されたもので其の標榜する所は勞資協調である。勞資協調と云ふ事は日本の國情に於て、殊に印刷業に於ては、労働者をして經濟的奴隸の状態から一歩も踏み出させまいとする資本家の猾手段であり、労働者を瞞着せんとするものである事は既往の資本家の態度に依て明かである。

労働組合は資本家と對立するものである、資本家に率ひられる事を恥としないならば團結は不必要であり、組合組織は無意義である、東京印刷工組合は資本家に率ひられて居る。此の如き組合は労働組合の精神に叛くものであつて、苟も自覺したる労働者の一日も存在を容すべからざるものである。労働組合の假面を被り、正直なる労働者を利用して資本家の走駒たらしめんとする東京印刷工組合を撲滅するの道は唯全印刷工組合が信友會に加盟するにある。

大正九年五月

東京市外西大久保三二五

日本印刷工組合 信友會